

6月16日午後8時、私はまき夏まつりの真っ最中において、神輿を担いでいました。3団体（黒崎町商工会青年部、黒崎青年会議所、黒崎町役場）と有志参加の数十名からなる黒崎「やかた竿燈」の熱気は地元巻町の神輿を凌ぐかと思わせるものでした。

「ワッショイ、ワッショイ」と担いでいるうちに、頭の中が無になり、やがて壮快な気分になります。人との出会いが、こんな機会を与えてくれた事に感謝します。

まき夏まつりは、盛大に行われていて、まつりがもつ歴史の長さを感じさせ、巻町が地域の中心になっている事を表しているようでした。黒崎まつりも、年々盛り上がりを見せており、町づくりの一助になっていると思われまます。誰でも自由に個人参加出来ます。ご連絡ください。楽しいですよ。

多くの地域がそうであるように、黒崎町は、現在の行政エリアと実

際の生活エリアを異にし、通勤、通学の為に新潟市等へ通うなど、一日の生活圏は広域化しています。そして、黒崎町の将来が、合併するか否か、いずれにあるにせよ、皆に「住みたい町」と言われるようなものがあって欲しいと願います。「その為には何が必要なのか」その一つの答えが、住民からの要望である「公園」、「温水プール」等々の建設なのでしょう。しかしながら、それらハード面を充実したとしても、将来、我々の子供達とするかは別です。なぜなら、そんな施設は日本中どこにでもあるからです。

人を捉えて離さない魅力。それは、人だろうと私は思います。私は10年間首都圏で暮らしました。都会の情報量の多さは地方のそれとは比較にならないし、交通アクセスも良く、意外に人の心も温かい。都会が想像以上に快適な事に、



右から3人目が小池さんです。

貴重な経験と感動

鳥原大明 小池 可奈子

私がハンドボールを始めたのは、高校に入って友だちと一緒になんとなくだった。それまでは、そのスポーツの存在自体知らなかった。新潟県内ではまだメジャーではなく、男子は9校、女子は3校しかなかった。新潟江南高校は、インターハイに20年以上も連続出場していた。地区大会はなく、すぐに県大会、しかも決勝リーグだった。だから目標は、すでに県内ではなく、県外へと向けられていた。

部活内の人数が少なかったこともあって、1年の秋季から北信越大会、インターハイ、北信越団体

と、いろいろな大会に出場することができた。結果としては、先に進むことはできなかったけど、いい試合がたくさんあった。

このスポーツをやっていた、高校生活は、休みがなかったり、練習がきつかったり、周りの人とは違う感じだったけど、大きなケガもなく、大会や遠征でいるところに行けたこと、はじめて県外で一勝した時の感動、貴重な経験をしようと思う。

今後は、OGチームの一員として、楽しんでやっていけたら、と思う。

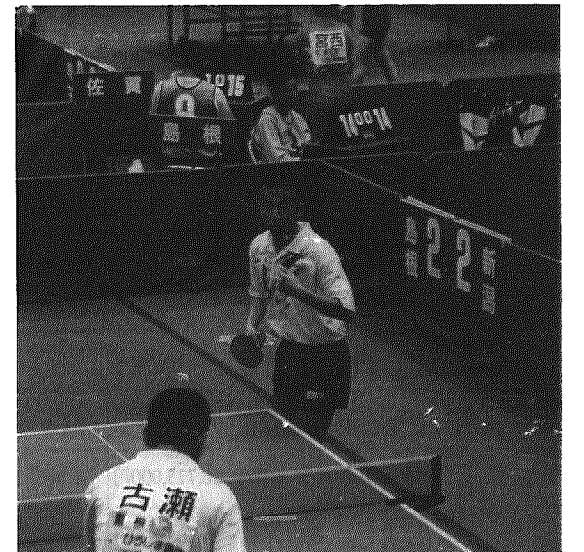
スポーツと私

生涯スポーツ シリーズ No.8

ハンドボール & 卓球

スポーツを通しての自分

木場下組 鷲尾 勇



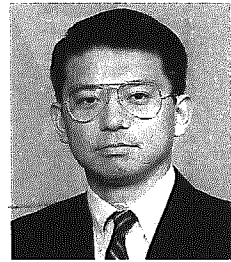
僕が、卓球というスポーツを選んだのは、小学校の高学年でした。皆が楽しく卓球をやっているのを見て自分もやってみようという気になったのが、始まりでした。最初は、遊び感覚でやっていたんですが、大会や練習試合で負けてから、「次は、絶対に勝つてやる」とライバル意識がで、目標を持った練習をするようになりました。

中学生になってからは、常に目標の選手のことを考え、全国大会を考えて無我夢中で卓球に打ち込みました。そして、中学3年最後の夏に北海道帯広市で行われた全国大会に出場することができ、そこでは良い結果はだせませんでした。全国のレベ

ルを感じることができました。それまで僕は、気が小さい所から、何事にも積極的に取り組む事が出来るようになったと思います。今は、北越高校で全国のシングルベスト16を目指し、団体ではベスト8以上を狙い頑張っています。

卓球は、気軽にできる楽しいスポーツですが、また、相手の心理を読んで戦う難しいスポーツでもあります。僕は、この卓球を通してもっと人間性を伸ばしていきたいようにこれからも頑張ります。

そして将来は、学校の教員になって卓球の楽しさを子供たちに伝えていきたいと思っています。



黒崎青年会議所理事長 中学通り 野田 温

新潟が最も良い所だと思っていた私は、むしろショックを受けました。そんな私が黒崎に帰って来たのは、両親や弟が居たからであり、幼なじみの友人達が居たからに他なりません。

「公園」や「温水プール」等はとても大切な施設で、町づくりの上で必須のものだと思います。しかし、そこで共に過ごす隣人と挨拶もしない町では寂しいと思います。地域のまつりは、そんな人々の潤滑油の役割を果たすような気がします。神輿を担いでみるのもいいものです。人を一体感にさせます。普段の生活では、絶対に知り合えない人と出会う神輿は、現在のハイテク時代にあつて、最もローテクニック(?)でヒューマンなものの一つでしょう。もう20年近く前に、葉月会という神輿の会の創設に参加し、新潟まつりで神輿を担いでいた頃があります。しかし、新潟まつりも良いですが、地域のまつりも良いものと最近思います。

今年、いっしょに神輿を担いでみませんか。

やかた竿燈に向けて

Part 10

住みたい町とは

いよいよ、まつり本番です。
やかた竿燈は、8月17日(日)午後7時45分～8時15分と9時～10時の2回に分け、大野町商店街で行われます。
参加を希望される方は、商工会青年部(☎377-3155)へ。